

II. 調査結果の分析

5. 保護者会

保護者組織の状況（地域区分）

学校の PTA 同様存在して当然と考えていましたが、実際の状況を調べた結果を見ると、細かな実態が読み取られます。全国でまとめたデータを見てみると 88.9% とほぼ 9 割の園で保護者会が存在しています。地域区分を見てみると北信越が 97.7% と最も高い数値での存在を示しています。反対に近畿地域の 81.2% と比べてみると 16.5% もの開きがあることが分かります。このことは、地域での親の意識や園の意識と、どんな関係を持っているのか興味深いところです。次のデータではさらにその事を推測させる一面が読み取れるのではないかと思われる事が示されています。図【2】のグラフ保護者会はあるか（所在地区分）で示される様に割合と小さな、いってみれば小回りの利くどちらかと言えばこじんまりとしている地区で、9 割以上の保育園に保護者会が存在していました。逆に中都市 78.8%、都区部・指定都市になると 78.3%、と 2 割保護者会の存在が減少している事が読み取られます。

エンゼルプラン（1994 年）から 10 年がたった今、その後保育指針第一章総則に示され当時、現場の中ではかなり様々な意見を生んだ部分でもあった「保育所における保育の基本は、家庭や地域社会と連携をはかり、保護者との協力の下に家庭養育の補完を行い……」とあります。又、「保護者の協力の下に」とあり保育者の多様な形態に合わせ家庭と共に子どもを育てていくという基本に、今まで以上のパートナーシップを強化していく事が明示されたはずです。都市化が進み親の就労形態が多種多様になる事が現実として多くなります。その中で親との協力の限界も感じとれます。しかし子どもの育ちを真剣に考える事をそれぞれの立場にある者が同じ目的とした時に職員を初めとした保育園現場と保護者がどの様に連携を計り方向付けそれぞれの個性にあった姿に向けていくか、さらなる工夫とそれを現実にしていく情熱が必要でしょう。お互いの丁寧な対話のさりげない積み重ねの中で育児の楽しさを分かち合う仲間になっていく事も、工夫次第で出来るはずです。

結果を分析していくと、親の立場を主体とした、子どもの子育てに保育園が参画する会である保護者会に限界があるのか、時代の中での自然な成り行きであるのか、様々な価値観を広く認めていく中で保護者会を持たない保育園との親の存在が今後増加していく事も予測されます。

保護者会を持たない理由として、図【3】のグラフで示すように「必要性を考えていない 30.2%」「保護者が望まない 21.7%」「中心になる保護者がいない 10.1%」となっています。約 6 割の理由が、保護者会活動に対してのメリットを感じられず、その上忙しさや時間のない中ではあえて無理ができないことから来るものではないかと考えられます。「以前はあって今はない」という理由が 31.8% も占めていることから、

同じように考えられます。必要性に関しては、保育園側からの保護者会についてのアプローチをどの様にしていったか、あきらめる事無く対話を持ち続けたうえなのか考えていく必要があります。